



笠原 幸江 議員

質問 「ジオの食材を食べろう」 20・10・0運動の検証と課題について

当市は、1日1人当たりのごみ総排出量を890グラムにするため、食べ残しをゼロにすることを目標に、ごみの減量化を推進している。その一環である20・10・0運動※は、市民にとってどちらかと言えば理解度が低く、「生ごみ」の減量に効果をあげているか疑問に感じている。

20・10・0運動を開始して以来の市民の反応と減量の効果はいかがか。ごみ処理に係る1人当たりの年間経費をどのように分析しているか。また、ごみ減量のための分別方法と次期ごみ焼却処理施設についてはどうか。

▼市長答弁

20・10・0運動については、啓発用に作成したコースターが好評で、増刷を行い対応している。平成26年度のごみの総排出量は、前年度と比べ2.7%減少しており、ごみ減量効果は出ていると思っている。

1人当たりのごみ排出量は年々減っているが、1人当たりのごみ処理経費は平成22年度から増加傾向となっており、増加の要因としては、運転管理委託料の見直しなどによるものと分析している。

現在、次期ごみ焼却処理施設の基本設計中であり、ごみの排出見込量にあわせた適正な施設規模や減量、分別方法などによって総合的に検討を進めていく。



「20・10・0運動」コースター



田中 立一 議員

質問 北陸新幹線糸魚川駅・ えちごトキめき鉄道開業後の 課題について

北陸新幹線沿線の騒音・振動について、鉄道・運輸機構は北陸新幹線沿線住民の苦情を受け、騒音・振動の2次測定調査を実施したが、その結果と対策を市はどのように捉え、今後はどのように対応するのか。

えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインの通勤通学時の混雑緩和について、現在どのような対策が考えられているか。開業前と比較して、利用客数についてはどのように捉えているか。

り状況を確認し、問題解決に向けた対応を鉄道・運輸機構へ求め、必要に応じて地元説明会を開催している。

日本海ひすいラインについては、車両の増設をえちごトキめき鉄道へ引き続き要望していく。利用客数については、特急が無くなったことから開業前との比較は難しい状況である。

質問 農業政策について

農協法改正案について、市はどのように捉えているか。また、今年から仮渡金の決定方法が変わったことによる米価への影響をどのように考えるか。

耕作放棄地の課税強化が検討されているが、市ではどのように考えているか。

▼市長答弁

農協と農業者が連携して農村の活性化に取り組むことが不可欠であり、行政も一体となって推進していく。また、米価については、先般、ひすい農協から地域の実態に基づいた単価が示され、農業者の生産意欲と所得の向上につながるものと考えている。

耕作放棄地の課税強化については、現時点では国から詳細が示されていないことから、情報収集に努めていく。

▼市長答弁

柱道地区については、2次測定の範囲を拡大して調査中であり、梶屋敷地区については、2次測定の結果が出ており、地元自治会と連携し、鉄道・運輸機構と調整を図っている。市へ寄せられた苦情や要望等によ

※ 20・10・0運動…「もったいないの心10か条」の1つ、「食べ物を残したり、粗末にしたりしない」を市民みんなで推進するための取組。(1)乾杯後の20分間は自席でおいしい料理を楽しみましょう、(2)万歳前の10分間は席に戻ってもう一度料理を楽しみましょう、(3)帰るときには、食べ残し「0(ゼロ)」